

# Arcserve Backup 18.0: 下位互換サポート

<b>1</b>	<b>下位互換サポートについて</b>	<b>1</b>
1.1	下位互換サポートの対象製品と対象バージョン	1
<b>2</b>	<b>注意点</b>	<b>2</b>
2.1	全体的な注意点	2
2.1.1	下位互換バージョンのライセンス登録	2
2.1.2	下位互換バージョンの OS とアプリケーションバージョン	2
2.1.3	同一ノードでのバージョン混在	2
2.1.4	下位バージョン製品の Service Pack / 累積モジュール	3
2.1.5	上位バージョンの機能	3
2.1.6	Arcserve シリーズ製品との混在環境	3
2.2	CLIENT AGENT FOR WINDOWS / LINUX の注意点	3
2.2.1	下位互換サポート範囲の OS バージョン	3
2.2.2	Disaster Recovery Option での惨事復旧	3
2.3	AGENT FOR OPEN FILES の注意点	3
2.3.1	VSS ライタ機能	3
2.4	AGENT FOR VIRTUAL MACHINES (VSPHERE) の注意点	4
2.4.1	下位互換サポート範囲の vSphere 環境	4
2.4.2	ライセンスバージョン	4
2.4.3	物理方式のバックアップ	4
2.5	AGENT FOR VIRTUAL MACHINES (HYPER-V) の注意点	4
2.5.1	Hyper-V ホストと各仮想マシンでのバージョン混在	4
2.5.2	ライセンスバージョン	5
2.5.3	物理方式のバックアップ	5
2.6	その他の注意点	5
2.6.1	Arcserve Backup マネージャ	5
2.6.2	Arcserve Backup ドメイン環境	5
2.6.3	Global Dashboard	5



# 1 下位互換サポートについて

---

Arcserve Backup は、同一バージョン間だけではなく、下位バージョンのエージェント製品を利用したバックアップも可能です。下位互換を利用することで、バージョンアップができない環境や、アップグレードに時間がかかる環境において、バックアップ運用を継続できます。

下位互換とは、バックアップ サーバから下位バージョンのエージェントに接続する環境を指します。

(Arcserve Backup 本体製品が上位バージョン、各エージェント製品はバックアップ サーバよりも下位のバージョンになります)。下位互換の対象製品や注意事項は本文書で確認してください。

## 1.1 下位互換サポートの対象製品と対象バージョン

Arcserve Backup 18.0 では、下記エージェント製品の下位互換をサポートします

- Client Agent for Windows
- Client Agent for Linux
- Agent for Open Files
- Agent for Virtual Machines  
(Guest Based Virtual Machines Agent Bundle と VM Agent per Host License)

対象バージョンは、サポート期間中のバージョンになります。サポート期間終了とともに、該当バージョンの下位互換サポートも終了となります。Arcserve 各製品のサポート終了日や終了予定日は、Arcserve Japan のサポート サイトか、下記 URL から確認できます。(Arcserve Backup 18.0 リリース時点では、r17.5 と r17 が対象になります。)

**製品サポートライフサイクル関連情報:**

<https://support.arcserve.com/s/article/202712735?language=ja>



## 2 注意点

下位互換サポートにはいくつか注意点があります。「2.1 全体的な注意点」と、利用する各製品の注意点、最後に「2.6 そのほかの注意点」をすべて確認してください。

### 2.1 全体的な注意点

#### 2.1.1 下位互換バージョンのライセンス登録

Arcserve Backup 18.0 では、アクティベーションによりライセンス認証を行うため、登録する製品キーはありませんが、下位バージョンの Arcserve Backup には製品キーがあります。下位互換を行う該当の製品キーを下記ライセンス モジュールに追加登録してください。

##### Arcserve Backup r17.5 ライセンス モジュールのパス

(64 ビット): C:\Program Files (x86)\Arcserve\SharedComponents\CA\_LIC\CALicnse.exe

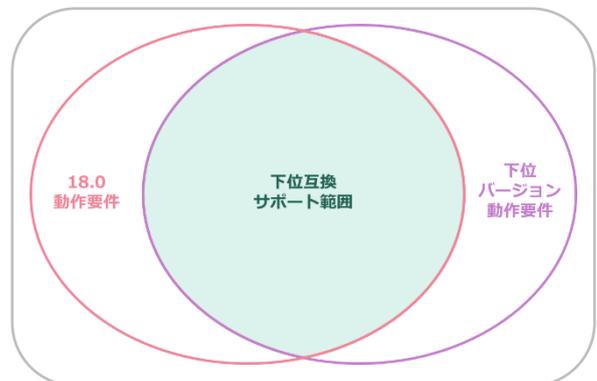
(32 ビット): C:\Program Files\Arcserve\SharedComponents\CA\_LIC\CALicnse.exe

(※) ライセンス登録済みの Arcserve Backup r17 や r17.5 から上書きアップグレードを行った場合には、新バージョン環境に製品キーも引き継がれます。

#### 2.1.2 下位互換バージョンの OS と アプリケーション バージョン

下位互換でサポートとなる OS やアプリケーションは、バックアップ サーバ側の動作要件と、エージェント側の動作要件の両方に掲載しているバージョンと SP の組み合わせが対象になります。

(※) アプリケーションは Agent for Open Files の VSS ライタ機能をサポートします。



#### 2.1.3 同一ノードでのバージョン混在

1つのノードに導入できる Arcserve Backup の製品 (ベース本体/オプション/エージェント) は、1つのバージョンのみです。

下位互換対象の製品と、下位互換に対応していない製品が混在しているノードでは、すべての製品をバックアップ サーバのバージョンに合わせてください。Arcserve Backup 製品を上書きでアップグレードを行うと、導入しているすべての製品を自動的に 18.0 にアップグレードします。



### 2.1.4 下位バージョン製品の Service Pack / 累積モジュール

下位互換では、下位バージョン製品への最新 Service Pack や累積モジュールの適用は必須ではありませんが、下位互換のエージェントで問題が発生した場合、問題解決や調査のために、Arcserve Backup 各バージョンの最新 Service Pack や累積モジュールなどの適用をお願いすることがあります。

### 2.1.5 上位バージョンの機能

Arcserve Backup 18.0 でサポートしている機能でも、下位互換の各バージョンで対応していない機能は利用できません。18.0 および r17.5 (下位互換で r17 を利用する場合) の新機能/拡張機能は、各バージョンのリリース ノートを参照してください。

マニュアルページ:

<https://support.arcserve.com/s/topic/0TO1J000000I3q2WAC?language=ja>

### 2.1.6 Arcserve シリーズ製品との混在環境

1つのノードに Arcserve シリーズの別製品、Arcserve UDP / Replication / HA を導入し、それぞれの連携機能を利用しているケースでは、Arcserve シリーズすべての製品のアップグレードが必要になる場合もあります。各製品のマニュアルやサポート サイトを参照してください。

## 2.2 Client Agent for Windows / Linux の注意点

### 2.2.1 下位互換サポート範囲の OS バージョン

サポート範囲の OS は、前述「2.1 全体的な注意点」の“サポート対象の OS とアプリケーションバージョン” 範囲内の OS と SP の組み合わせになります。

### 2.2.2 Disaster Recovery Option での惨事復旧

Client Agent for Windows の環境で Disaster Recovery Option を利用している場合は、下位互換環境でバックアップした後に復旧キット (WinPE DR の起動メディアやマシン固有情報など) を再作成してください。

(※) Arcserve Backup 18.0 では、WinPE 方式の惨事復旧のみサポートになります。

## 2.3 Agent for Open Files の注意点

### 2.3.1 VSS ライタ機能



Agent for Open Files に含まれる、VSS ライタによるオンライン バックアップの対象アプリケーションは、前述「2.1 全体的な注意点」の“サポート対象の OS と アプリケーション バージョン” 範囲内のバージョンと SP の組み合わせになります。

## 2.4 Agent for Virtual Machines (vSphere) の注意点

### 2.4.1 下位互換サポート範囲の vSphere 環境

サポート範囲の vSphere 環境は、前述「2.1 全体的な注意点」の“サポート対象の OS と アプリケーション バージョン” 範囲内のバージョンと Update の組み合わせになります。

### 2.4.2 ライセンス バージョン

vSphere から仮想マシンのデータを受け取るバックアップ方式 (raw モード、混在モード、ファイルモード) を利用している場合、仮想マシンとバックアップ プロキシに導入している Agent for Virtual Machines はすべて同じバージョンのライセンス キーを用意してください。仮想マシンへの Agent 製品導入状態にかかわらず、バックアップ対象の仮想マシンにはすべて、バックアップ プロキシと同じバージョンの Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

### 2.4.3 物理方式のバックアップ

Agent for Virtual Machines に含んでいる Client Agent や、Agent for Open Files の機能を使って、仮想マシンを物理環境と同じ方法でバックアップを行っている環境では、前述「2.1 全体的な注意点」、「2.2 Client Agent for Windows / Linux の注意点」、そして「2.3. Agent for Open Files の注意点」を参照してください。この環境ではバックアップ プロキシの機能を利用しないため、各仮想マシンに導入している Agent のバージョンが不揃いでも、サポート対象になります。

## 2.5 Agent for Virtual Machines (Hyper-V) の注意点

### 2.5.1 Hyper-V ホストと各仮想マシンでのバージョン混在

バックアップ ソースの選択で、Hyper-V から仮想マシンを選択し、さらに下記の条件に該当する場合は、Hyper-V ホストと各仮想マシンに導入している Agent for Virtual Machines を、すべて同じバージョンで利用してください。

- ファイル単位のリストアを行う、[ファイル レベル リストアを許可する] にチェックを入れた raw モードや、同じくファイル単位のリストアを行う混在モードを利用する場合
- ドライブ単位のバックアップやファイル単位のリストアを行うファイルモードを利用する場合



## 2.5.2 ライセンス バージョン

Hyper-V から仮想マシンのデータを受け取るバックアップ方式 (raw モード、混在モード、ファイルモード) を利用している場合、仮想マシンと Hyper-V ホストに導入している Agent for Virtual Machines はすべて同じバージョンのライセンス キーを用意してください。仮想マシンへの Agent 製品導入状態にかかわらず、バックアップ対象の仮想マシンにはすべて、Hyper-V ホストと同じバージョンの Agent for Virtual Machines のライセンスが必要です。

## 2.5.3 物理方式のバックアップ

Agent for Virtual Machines に含んでいる Client Agent や、Agent for Open Files の機能を使って、仮想マシンを物理環境と同じ方法でバックアップを行っている環境では、前述「2.1 全体的な注意点」、「2.2 Client Agent for Windows / Linux の注意点」、そして「2.3 Agent for Open Files の注意点」を参照してください。この環境では Hyper-V ホストからデータを受け取らないため、各仮想マシンに導入している Agent のバージョンが不揃いでも、サポート対象になります。

## 2.6 そのほかの注意点

### 2.6.1 Arcserve Backup マネージャ

Arcserve Backup をリモート環境から操作する場合は、同じバージョンの Arcserve Backup マネージャを導入してください。

### 2.6.2 Arcserve Backup ドメイン環境

Central Management Option を利用しているドメイン構成では、プライマリ サーバとメンバ サーバのすべてで同じバージョンの Arcserve Backup 製品を利用してください。プライマリ サーバやメンバサーバから接続するエージェントでは、下位互換の対象製品を利用できます。

SAN 上のテープ装置や VTL を共有する SAN Option 利用環境も、Arcserve Backup ドメイン環境となるため、テープ装置や VTL を共有するすべてのサーバに、同じバージョンの Arcserve Backup 製品を導入してください。

### 2.6.3 Global Dashboard

複数の Arcserve Backup ドメイン環境やスタンドアロンのバックアップ サーバ環境を一元管理する Global Dashboard では、同じバージョン間での管理をサポートしています。各バックアップ サーバに導入する Arcserve Backup 製品のバージョンは、セントラル プライマリ サーバにあわせてください。

